

2024～2025 年度

# 平和スタディツアーを企画しよう！

法政アクティブリサーチ 寺川クラス

阿波屋 隆

藤谷 羽潤

森川 華

吉田 こころ

黒木 静流

西馬 天優

萩原 実咲

## 《 目次 》

### はじめに

#### 第1章 平和スタディツアーの企画

#### 第2章 行き先を広島に決定したことの理由と経緯

##### I 予算面

##### II 本川小学校を調査対象として訪問先に決定した理由

###### (1) 訪問先の選定

###### (2) 訪問先決定後の準備

###### (3) 質問項目の検討

#### 第3章 平和スタディツアーへ

##### I 旅程の検討

##### II エクスカーション

##### III 本川小学校へ

###### (1) 本川小学校までの道のり

###### (2) 本川小学校平和資料館内をめぐりながら

###### (3) あらためて説明をうかがう

###### (4) 自由行動

##### IV 本川小学校から原爆ドームを経由して袋町小学校へ

##### V 袋町小学校へ

### おわりに

## はじめに

その日のおわりに「きみは今日、平和のために何をしたか？」と問われたら、何と答えるだろうか。家族や友だち、まわりにいる人たちとの日々の交わり、くらしのなかで平和のためにできることがあるはずだ。私たち若い世代が平和や戦争のことを自分なりに感じ取ることができるような「きっかけづくり」を考えてみたいと思った。題して「平和スタディツアーを企画しよう！」平和であってほしいという思いを多くの人に伝えることができるようなツアーをクラス全員で企画した。

## 第1章 平和スタディツアーの企画

私たちが当初提案したスタディツアーの企画は次の7件である。

|   | 行き先           | 訪問先                      | 特徴や特色                     |
|---|---------------|--------------------------|---------------------------|
| 1 | 京都府舞鶴市        | 舞鶴引揚記念館                  | 引揚をテーマとした記念資料館            |
| 2 | 鹿児島県南九州市      | 知覧特攻平和会館                 | 旧日本陸軍特別攻撃隊員の遺品などを展示       |
| 3 | 沖縄県読谷村<br>南城市 | シムクガマ チビチリガマ<br>糸数アブチラガマ | ガマによる生死やガマの規模・役割の違い       |
| 4 | 長崎県佐世保市       | 佐世保空襲資料室<br>無窮洞          | 空襲時の生活<br>教室としての使用        |
| 5 | 広島県竹原市        | 大久野島<br>毒ガス資料館           | 旧日本軍の毒ガス開発<br>「地図から消された」島 |
| 6 | 広島県広島市        | 本川小学校平和資料館               | 原爆被害を受けた校舎と資料館として保存       |
| 7 | 兵庫県加西市        | 鵜野（うずらの）飛行場跡             | 旧日本海軍の練習航空隊の飛行場跡          |

### 1 舞鶴引揚記念館

戦争中の被害について注目される事は多いが、戦争終結後の出来事については注目されないことが多い。とくに第二次世界大戦に関する映像をテレビで見たり、当時の写真を新聞で見たりするとき、広島や長崎への原爆投下による被害や、戦場での撃ち合いなど、戦争による直接的な被害に注目が集まる。しかし、戦争終結後も苦しみ続けた人々は存在し、その人たちの存在を知ることによって戦争の悲惨さを感じることもできるのではないかと考えた。その一つが引揚である。戦地から帰ってくる人々や、待ち続けた人々の心情を知り戦争の被害の大きさを再認識できる機会にしたい。引揚やシベリア抑留に関する記録や資料を展示する舞鶴引揚記念館のほかに、<sup>1</sup>「岸壁の母」の碑がある。

### 2 知覧特攻平和会館

特攻隊員の足跡を辿るスタディツアーである。第二次世界大戦下、「必ず死ぬ」という必死条件を付され、戦った青年たちがいる。20歳前後という私たちと同年代である。祖国のために命を捧げた彼らの全容を学ぶため、本土防衛の最前線であった鹿児島へ赴く。知覧特攻平和会館では、当時の写真や遺品などが展示されており、<sup>2</sup>特攻隊員たちの心情を深く理解することができる。また、戦跡地を訪れることで当時の状況を想像し、歴史の重みを感じ

<sup>1</sup> 舞鶴引揚記念館ウェブサイト <https://m-hikiage-museum.jp/>（閲覧日 2025年6月1日）。

<sup>2</sup> 知覧特攻平和会館ウェブサイト <https://www.chiran-tokkou.jp/heiwakaikan.html>（閲覧日 2025年6月3日）。

ることができる。知覧特攻平和会館は特攻隊員たちの遺書や遺影、実際に使用された航空機の部品などが展示されている資料館である。これらの展示を通じて、隊員たちの心情を直接感じ取ることができる。また、敷地内には時の油脂庫や弾薬庫、訓練施設なども残っている。<sup>3</sup>

なお、周辺には、「特攻の母」と呼ばれた鳥濱トメが営んでいた『富屋食堂』を復元した施設で、現在は資料館となっている「ホテル館 富屋食堂」や、<sup>4</sup>富屋食堂の味を引き継ぎ、鳥濱トメの曾孫が営む食事処「知覧茶屋」がある。<sup>5</sup>

### 3 シムクガマ チビチリガマ 糸数アブチラガマ

沖縄県に残る数々のガマをめぐる。読谷村に現存するシムクガマとチビチリガマ、<sup>6</sup>南城市の糸数アブチラガマ<sup>7</sup>の3か所を訪れ、とくにガマによる特徴の違いに着目したい。米軍が沖縄に上陸した際、チビチリガマでは集団自決によりたくさんの人が命を落とした。他方で、シムクガマでは住民たちが米軍に投降したことで、たくさんの命が救われたという。同じ地域のガマにもかかわらず死者数に大きな差がある。<sup>8</sup>読谷村から少し離れた南城市にある糸数アブチラガマは、読谷村の2つのガマと比較して大規模で、住民の避難だけでなく、日本軍の陣地壕や倉庫、病院の分室としても使われた。<sup>9</sup>

### 4 佐世保空襲資料室 無窮洞

原爆と空襲はともに多くの命を奪った。無辜の市民を無差別に攻撃する無残さは原爆と空襲に通ずるものがある。この2つを同時に学習できる訪問先を探すと長崎にたどりつく。佐世保市では、太平洋戦争末期の1945年6月28日の深夜から29日の未明にかけて、アメリカ軍が市街地に焼い弾などを投下し、1200人以上が犠牲になったという。<sup>10</sup>佐世保空襲資料室には当時の写真や資料が展示されている。<sup>11</sup>第二次世界大戦中の1945年6月28日から29日にかけて行われた佐世保空襲により被災した建物の写真や当時の衣服など約1500点が展示されている。<sup>12</sup>

無窮洞は当時の中学生や小学生、教師が終戦の日まで掘り続けた防空壕で、今も残っており見学することができる。<sup>13</sup>生徒約600人が避難できたとされる広さがあり、トイレや炊事場、教壇がある教室まで作られている。<sup>14</sup>

---

<sup>3</sup> 同上。

<sup>4</sup> ホテル館 富屋食堂ウェブサイト <https://tokkou-no-haha.jp/tomiya-shokudo/>（閲覧日 2025年6月3日）。ホテル館 富屋食堂には検閲を通していない特攻隊員たちの手紙や遺品等が展示されている（同ウェブサイト）。

<sup>5</sup> 知覧茶屋ウェブサイト <https://tokkou-no-haha.jp/chiran-chaya/>（閲覧日 2025年6月3日）。知覧茶屋で提供される料理は、隊員たちが当時口にしていた鹿児島県の郷土料理や家庭的な和食が中心となっている（同ウェブサイト）。

<sup>6</sup> 読谷村観光協会ウェブサイト <https://www.yomitan-kankou.jp/tourist/watch/1611319972/>（閲覧日 2025年6月3日）。

<sup>7</sup> 南城市ウェブサイト <https://abuchiragama.com/>（最終閲覧日：2025年6月3日）。

<sup>8</sup> 読谷村観光協会ウェブサイト、前掲・注（6）。

<sup>9</sup> 南城市ウェブサイト、前掲・注（7）。

<sup>10</sup> NHK 長崎 NEWS Web <https://www3.nhk.or.jp/lnews/nagasaki/20240624/5030021081.html>（閲覧日 2025年6月10日）。

<sup>11</sup> 佐世保市役所ウェブサイト <https://www.city.sasebo.lg.jp/siminseikatu/simian/sasebokuusyu.html>（閲覧日 2025年6月10日）。

<sup>12</sup> <https://www.sasebo99.com/tour/100133>

<sup>13</sup> 佐世保市役所ウェブサイト無窮洞 <https://www.city.sasebo.lg.jp/kyouiku/bunzai/documents/mukyuudousaisinn.pdf>（閲覧日 2025年6月10日）。

<sup>14</sup> させぼ・おちかの観光情報サイト <https://www.sasebo99.com/tour/100001>（閲覧日 2025年6月10日）。

## 5 大久野島 毒ガス資料館

広島県の瀬戸内海に浮かぶ大久野島は、戦前・戦中に日本陸軍によって毒ガス兵器が極秘裏に製造されていた場所である。極秘事項であったことから、この島はかつて地図から消された。今も戦争の痕跡が数多く残されている。生物化学兵器の歴史をたどることで、現代の戦争・紛争における倫理や平和への責任について考える契機となると考えられる。<sup>15</sup>とくに、大久野島毒ガス資料館には、資料や映像展示があり、毒ガス兵器の歴史や製造過程、そして実際に被害を受けた人々の証言などを学ぶことができ、<sup>16</sup>戦争の加害と被害、そして隠されてきた歴史を知ることができる。大久野島を訪問することで、戦争の残酷さだけでなく、平和の大切さとその継承の難しさを実感できるものと考えられる。現代においても化学兵器使用に関するニュースに接することがあり、無関心ではいられない。

## 6 本川小学校平和資料館

広島県の原爆被害を直接受けた本川小学校は、その校舎の一部を平和資料館としている。被爆した校舎や当時の写真、遺品などを通じて戦争の悲惨さをじかに体感できる。詳細は第2章で述べる。

## 7 鵜野飛行場跡

第二次世界大戦時の旧日本海軍の練習航空隊の飛行場跡である。正式名称は「姫路海軍航空隊」であるが地元では「鵜野飛行場」と呼ばれている。<sup>17</sup> 鵜野飛行場には「sora かさい」という資料館があり、戦争博物館としての役割があるのと同時に、飲食ができるカフェとグッズ購入ができるショップにもなっている。<sup>18</sup>また、土日祝日限定であるが、特攻隊「白鷺隊」の隊員たちの遺書を紹介する映像を見ることができる。<sup>19</sup>実際の滑走路跡に行くことができることや、兵庫県加西市が保存する意義を確認することも戦争の歴史を感じることにつながると考えられる。

\*次ページ以降の地図は「地理院地図」を使用した。

<https://maps.gsi.go.jp/#6/32.833443/135.922852/&base=blank&ls=blank&disp=1&vs=c1glj0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f2&d=m> (使用日 2025.06.20)

---

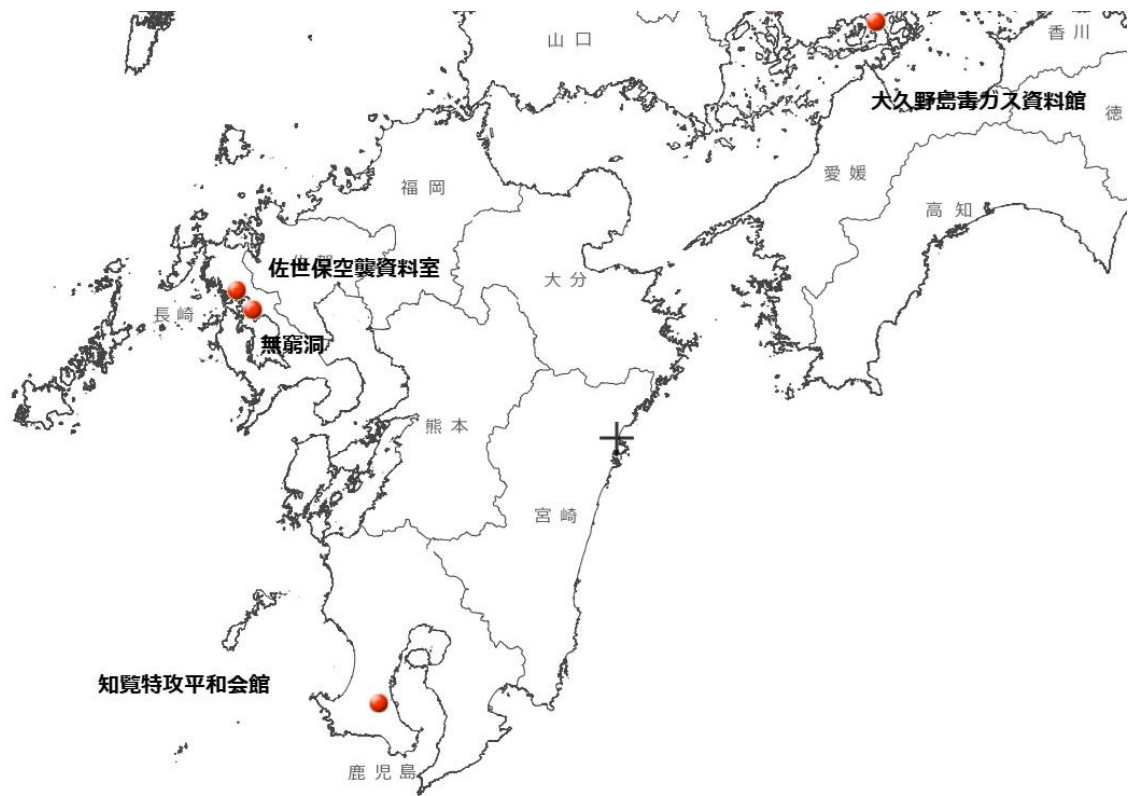
<sup>15</sup> ひろしま竹原観光ナビ <https://www.takeharakankou.jp/spot/4346> (閲覧日 2025 年 6 月 2 日)。

<sup>16</sup> 大久野島毒ガス資料館ウェブサイト <https://www.city.takehara.lg.jp/kyouiku/sisetu/ohkunoshima.html> (閲覧日 2025 年 6 月 2 日)。

<sup>17</sup> 加西市ウェブサイト <https://www.city.kasai.hyogo.jp/soshiki/4/1780.html> (閲覧日 2025 年 6 月 10 日)。

<sup>18</sup> 同上。

<sup>19</sup> 同上。なお、白鷺隊については、かさい観光ナビ護皇白鷺隊を参照。<https://kanko-kasai.com/navisite/wp-content/uploads/2021/12/uzurano.pdf> (閲覧日 2025 年 6 月 10 日)。





## 第2章 行き先を広島に決定したことの理由と経緯

### I 予算面

第1章で挙げた7か所のうち企画対象とする1か所を決定するにあたり、予算面については次の諸点を考慮した。

- ・若い世代とくに大学生が訪問することを想定しているため、高額にならないようにする。
- ・ツアー日数は1泊2日か2泊3日が考えられる。
- ・京都から比較的近い場所の場合、日帰りツアーを複数回実施することも視野に入れる。
- ・公共交通機関を利用する。
- ・訪問先周辺の移動も可能な限り公共交通機関とするが、タクシーの利用も可とする。
- ・飛行機を利用する場合低価格の利用料金を選択する。
- ・宿泊施設は立地や信頼性を重視し、そのために最安の施設でなくてもかまわない。

株式会社リクルートが発表している「じゃらん観光国内宿泊旅行調査 2024【旅行市場動向編】」によれば、2023年度における「宿泊旅行実施者の1回の旅行当たり平均宿泊数」は18～29歳男性が1.72泊、18～29歳女性が1.63泊となっている。また、「1回の国内宿泊旅行にかかった費用」は個人旅行の場合、18～29歳男性が総額60,300円（内訳は交通費14,100円、宿泊費15,400円、現地消費30,800円）、18～29歳女性が総額56,100円（内訳は交通費14,500円、宿泊費15,900円、現地消費25,800円）である。<sup>20</sup>18～29歳の女性および男性について、宿泊費がおおむね15,600円、1回の旅行当たりの平均宿泊数がおおむね1.67泊であるとする、1泊あたりの宿泊費は15,600円÷1.67=9,340円がかかっていると考えることができる。同じく交通費はおおむね14,300円となる。交通費14,300円という金額は比較的近い場所への移動が想起される。たとえば京都から東京までの片道新幹線利用とほぼ同じである。

<sup>20</sup> 株式会社リクルート ウェブサイト [https://jrc.jalan.net/wp-content/uploads/2024/07/Jalasyuku2024Market\\_Trends.pdf](https://jrc.jalan.net/wp-content/uploads/2024/07/Jalasyuku2024Market_Trends.pdf)（閲覧日 2025年5月30日）。



この調査は「観光などを目的とした宿泊を伴う国内旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）」の実態を調べたものであることから、現地消費のうち観光施設への入場料などが比較的大きなウェイトを占めているのではないかと想像できる。平和スタディツアーの場合、訪問先施設への入場料（施設維持費など別名目の場合もあるがそのような場合も「入場料」とする）は比較的安価であることが多く、入場無料のところもある。そうすると、現地費用として必要なものは施設入場料と食事代であり合わせて6,000円もあれば十分であろう。

以上のことから、1泊2日の場合、交通費15,000円、宿泊費10,000円、現地消費6,000円、計31,000円、2泊3日の場合、交通費15,000円、宿泊費20,000円、現地消費12,000円、計47,000円となり、これを今回のスタディツアーにあてはめた場合、交通費と宿泊費を合わせて25,000円～35,000円が目安となる。

## Ⅱ 本川小学校を調査対象として訪問先に決定した理由

### （１）訪問先の選定

第1章で紹介したように、当クラスの訪問先候補は7か所である。1か所に絞るため受講生による投票を行った。いずれも僅差でありそれらのうち3か所を紹介したうえで、それぞれの特色や平和学習の意義などについて検討し、最終的に1か所に決定した。それが広島市の本川小学校である。

交通費と宿泊費を合わせて25,000円～35,000円とする工夫はそれぞれの企画において可能である。たとえば、交通費については次のように資産できる。長崎の無窮洞と佐世保空襲資料室の場合、関西空港から長崎空港まではピーチアビエーションを利用すれば、企画を立てた時点で往復14,700円であり、京都駅から関西国際空港までの往復交通費3,820円を加えても18,520円で京都・長崎間の往復が可能になる。沖縄読谷村のガマへの訪問においても、ジェットスター・ジャパンの利用で同じく関西空港・那覇空港間往復18,520円であり、その前後の交通費を加えても25,000円程度となる。広島市の本川小学校を訪問する場合、京都・広島間の往復は新幹線を利用し現地での移動は広島電鉄を利用した場合、交通費が24,500円となり、宿泊費を8,000円と見積もると1泊2日で合計32,500円となる。宿泊先は本川小学校へ徒歩で行くことができるよう、比較的近い場所を探した。<sup>21</sup>

予算面以外で、本川小学校を訪問先として決定したのは、おもに次の理由による。

- ・原爆の被害を受けた現存する建物のなかでもっとも有名な原爆ドームの中には入ることができないが、本川小学校の場合原爆の被害を受けた校舎がそのまま残っており中に入ることができる。
- ・原爆ドームや広島平和記念資料館は確かに訪問する必要性が高いが、修学旅行で訪れていることが多く、将来的にも訪問機会はあると考えられる。
- ・若い世代とくに大学生がもっと多く小学校を訪問し戦争や平和について何かを感じ自身で何かを考える契機になることが期待できる。

このように、今回の平和スタディツアーにおいて、私たちは7か所の行き先候補の中から広島を選択した。広島に決定した理由は、上記のように予算面と、若い世代である私たちが実際に訪れることができる地理的な条件を考慮したことによる。新幹線などを利用して無理のない日程で訪問できる場所であり、宿泊費や移動費も比較的抑えられることからより現実的であると判断した。

また、最終的な行き先は私たち全員による投票で決定した。投票の際には、単に興味や希望だけでなく、金銭面の負担、かかる日数、移動手段などの現実的な要素も検討材料とされた。その結果、最終的に、最も多くの票を集めた広島が行き先として選ばれた。

---

<sup>21</sup> 広島市内にはきわめて多くの宿泊施設があり、本川小学校の周辺にも多くの宿泊施設が存在する。宿泊費を低く抑えようと思えば低廉な施設も選べるが、保護者の方々に安心していただく必要があり、あわせて、大学生が宿泊するには高額すぎないようにしなければならない。また安全な立地も重要である。これらのことから今回のスタディツアーでは大和ハウス工業系列のダイワロイネットホテル広島（広島電鉄「中電前」下車すぐ）とした。早めに予約したため6,840円（シングル、税・サ込）である。



なかでも本川小学校、ならびに、本川小学校平和資料館を聴き取り調査の対象として選んだ理由は、その歴史的価値と平和学習の効果の高さにある。本川小学校は原爆の直接的な被害を受けた建物の一つであり、現在も当時の姿を一部残した形で保存されている。当時の校舎の中に入って見学することが可能で、実際に被爆の痕跡を自分の目で確認しながら、原爆がもたらした被害の深刻さや平和の大切さについて深く学ぶことができる。原爆の被害を伝える世界遺産の原爆ドームは外観を見ることはできても、内部に入ることはできない。そのため、より直接的に「被爆の現場」を体感できる本川小学校は、平和学習の訪問先として非常に有意義であると考えた。

このような経緯を経て、私たちは、広島、そして本川小学校への訪問を最終的に決定した。

## （２）訪問先決定後の準備

本川小学校への訪問を決定した後、法政アクティブリサーチの授業の一環としての訪問、当クラスが調査する内容とその目的を簡潔にまとめた訪問依頼文を作成した。原爆の被害を受けた本川小学校の現存する校舎が平和資料館として見学できるようになっており、個人であれば予約なしに訪問し見学することが可能となっているが、学校や団体が見学する場合は事前に所定の見学依頼書をファックスで提出することになっている。見学依頼書に添付するかたちで、次の訪問依頼文を当クラスより同時送信した。

翌日、見学日時確定の返信があり、2025年3月6日（木）午前10時に本川小学校を訪問することが決まった。ボランティアガイドの方については広島市教育委員会から別途連絡がある旨伝えられた。

本川小学校平和資料館 ご担当者 様

2025（令和7）年2月4日

突然のご連絡にて失礼いたします。

龍谷大学法学部2年生の〇〇〇〇と申します。

先ほど「本川小学校平和資料館見学依頼書」をファックスにて送らせていただきました。

現在、私たちは龍谷大学法学部で「法政アクティブリサーチ」という授業の一環で戦争と平和について学んでいます。とくに、戦争の記憶が薄れつつあるなかで、若い世代が戦争の現実や平和の大切さについて考える機会が減少していく懸念があることから、この授業では、若い世代が戦争の現実や平和の意義に関心をもち、考えるようになるきっかけを作るにはどのようにすればよいかという点について調査・検討しています。

つきましては、御資料館を見学させていただき、ボランティアガイドの方からお話を聞かせていただければ幸いに存じます。

龍谷大学法学部「法政アクティブリサーチ」受講生一同

### (3) 質問項目の検討

現地での聴き取りに際し事前に質問内容を検討した。これには本学が導入している manaba を用いた。<sup>22</sup>本川小学校に関する資料を事前に用意し、受講生 1 人あたり 5～6 個の質問を考え、全員が manaba のレポートに提出、それらを担当教員が項目ごとにまとめた。質問項目は次の通りである。

| I 本川小学校や平和資料館の特色について     |                                                                                                                                          |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 本川小学校の児童は、広島市内の他の小学校の児童と比べて、あるいは、広島以外の他の小学校の児童と比べて、戦争や核兵器に対する思いや知識量は違うと感じることはありますか。                                                      |
| <input type="checkbox"/> | ガイドボランティアの方から見て、本川小学校の児童の戦争や平和に対する意識に変化を感じることはありますか。つまり、以前と比べて、児童の戦争や平和に対する意識が薄れていたりはないでしょうか。                                            |
| <input type="checkbox"/> | 現在本川小学校に通っている児童や保護者は平和資料館の運営に関わっているのでしょうか。とくに児童が平和資料館の運営に関わっているのだとすれば、どのような関わり方をしているのでしょうか。また、ふだんから平和の大切さを学んでいることになると思うのですが、そのあたりいかがですか。 |
| <input type="checkbox"/> | 広島市教育委員会は「こどもたちの平和学習推進事業」を掲げていて、小学校 1 年生という比較的早い段階から平和学習をしていると聞いています。その中でも、本川小学校独自の平和学習の取り組みがありましたら、お聞かせください。                            |
| <input type="checkbox"/> | 展示に関しておたずねします。ガイドボランティアの方から見て、本川小学校の平和資料館に来た人に、どんなことを感じてほしいと考えていますか。また、それを感じてもらうために、何か工夫をされているところがあるとすれば、どのようなところですか。                    |
| <input type="checkbox"/> | (I つ上の質問に関連して) 若い人たちがこの資料館を訪れたときに特に見てほしい展示は何ですか。また、若い人たちに伝えたいメッセージは何ですか？                                                                 |
| <input type="checkbox"/> | 平和資料館の展示に対して、どのような反応がありますか。本川小学校のホームページでは、来館者からのメッセージが紹介されていましたが、来館者がそれぞれに感銘を受けているようすがうかがえますが、その点いかがでしょうか。                               |
| <input type="checkbox"/> | 英語で書かれている説明がありましたが、海外からも多くの人を訪れるのでしょうか。                                                                                                  |
| <input type="checkbox"/> | 広島平和記念資料館の年間入館者数が、昨年度(2023年度)、今年度(2024年度)と連続で過去最多を更新しているという記事を見ました。とくに今年度ははじめて200万人を超えたとのことでした。本川小学校の平和資料館の入館者数も同じように増加傾向にありますか。         |
| <input type="checkbox"/> | 展示されている資料は、他にもどこかに保管されていたりしますか。また、今も学校の敷地やその周辺から、原爆投下当時の遺品などが見つかることはありますか。                                                               |
| <input type="checkbox"/> | ガイドボランティアの方から見て、この平和資料館は、将来にわたり、どのように継承されていけばよいでしょうか。                                                                                    |

<sup>22</sup> 株式会社朝日ネットによるクラウド型教育支援サービスである。manaba ウェブサイト <https://manaba.jp/products/> (閲覧日 2025 年 6 月 8 日)。

|                          |                                                                                                                     |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 本川小学校を残したことについて        |                                                                                                                     |
| <input type="checkbox"/> | 学校を復興することに困難なことはなかったでしょうか。                                                                                          |
| <input type="checkbox"/> | 本川小学校を残したことに何か大きな意味があるように思うのですが、ガイドボランティアの方から見てそれはどのような意味を含んでいると考えていらっしゃるでしょうか。                                     |
| <input type="checkbox"/> | 入館料を徴収しないということも含めて、この建物をどのようにして保存しているのか、お聞かせください。つまり、維持するだけでも、古い建物ということもあるので、かなりの費用がかかると思うのですが、その点どのようにされているのでしょうか。 |
| <input type="checkbox"/> | 被爆した当時の建物を残すことについて、「戦争を思い出してしまう」などの理由で反対されたり批判されたりしたことはありますか？                                                       |

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 平和学習や平和教育の在り方について      |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <input type="checkbox"/> | 今年は戦後80年という節目の年なので、戦争の記憶や平和への関心が呼び起こされることが期待されますが、逆に年月が経つにつれて戦争の記憶というものは薄れていきます。戦争を経験した人が減り、直接的な証言を得ることも難しくなっていきます。そのような状況をふまえると、戦争の記憶を伝える戦争遺跡の重要性は高まっていくと考えられます。そのようななかで、本川小学校平和資料館は、将来の平和学習や平和教育においてどのように発展するのが望ましいと考えられますか。また、現時点で、何か取り組もうとされていることはありますか。 |
| <input type="checkbox"/> | 今の日本は実際の戦争に巻き込まれることなく、ある意味「平和」ではありますが、そのため危機感が足りない指摘されることもあります。ガイドボランティアの方から見て、平和のために、私たちのような学生に期待していることはありますか。また、私たちにできることがあるとすれば、それはどのようなことだとお考えですか。                                                                                                       |

|                          |                                                                                                                                                              |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 原爆投下直後について             |                                                                                                                                                              |
| <input type="checkbox"/> | 原爆が投下されてから半年後に本川小学校では授業が再開されていますが、それは学校再開を望む声が多かったためですか。                                                                                                     |
| <input type="checkbox"/> | 被爆後の児童に対して、医学的な治療が必要だった場合も多くあったろうとは思いますが、同時に、児童への精神的な支援も必要だったのではないかと思います。つまり原爆投下を受けた子どもたちへの、今で言えば「精神的なケア」とか「心のケア」ということなのですが、その点についてはどのような取り組みや配慮が行われたのでしょうか。 |
| <input type="checkbox"/> | 原爆が投下されたとき、本川小学校にいた多くの人が亡くなり、その死因は「熱線」による「焼死」ですが、そのほかの死因としては、少数とは思いますが、どのような死因がありましたか。                                                                       |
| <input type="checkbox"/> | 原爆投下の翌日から、本川小学校は「臨時救護室」として使われていますが、それはどれくらいの期間使われていましたか。                                                                                                     |

## 第3章 平和スタディツアーへ

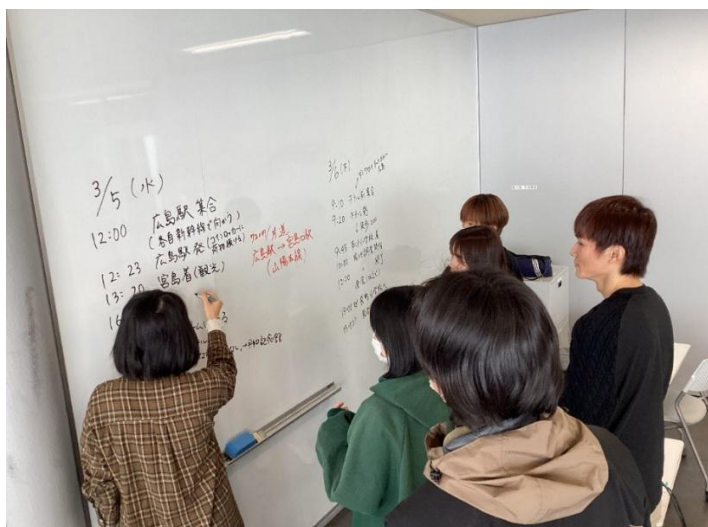
### I 旅程の検討

広島への1泊2日の平和スタディツアーを検討するにあたり、次の諸点を考慮した。

・天候不良などにより交通機関（とくに新幹線）にダイヤの乱れが生じ、予定していた訪問ができなくなることは避けなければならない。そのため、本川小学校への訪問は1日目ではなく2日目にするほうが安心である。

・そのため1日目は京都から広島への移動のみとするが、受講生の住所地がまちまちであることから本学もしくは京都駅でいったん集合して全員で移動するのではなく、各自で広島駅まで移動し、広島駅で集合したほうが合理的である。

- ・本川小学校には2日目の午前10時に訪問することが決まっているため、質問内容の事前確認は1日目のうちに済ませておく必要がある。
- ・せっかく広島へ行くのであるから1日目に時間の余裕がある場合には、エクスカーシオンに出かけたい。
- ・エクスカーシオンの候補地は「原爆ドーム・広島平和記念資料館・平和記念公園」と「宮島・厳島神社」である。原爆ドームと厳島神社はいずれも1996年に世界遺産に登録され、来年（2026年）には登録30年を迎える。
- ・平和スタディツアーの意義をふまえると「原爆ドーム・広島平和記念資料館・平和記念公園」をエクスカーシオンの行き先とするべきであるが、今回は本川小学校が中心であるため、原爆ドームなどは雨天の場合の目的地候補とすることとし、雨天でなければ「宮島・厳島神社」に向かうこととする。どちらに行くかは当日の天候によって決める。



2025. 02. 14 授業のようす 旅程を検討している

これらを考慮して決めたのが次の旅程である。

|     | 日付         | 種別 | 時刻           | 内容       | 備考                       |
|-----|------------|----|--------------|----------|--------------------------|
| 1日目 | 3/5<br>(水) | 移動 | 各自出発→12:00まで | 自宅 → 広島駅 | 各自新幹線で広島駅へ移動 集合前に昼食を済ませる |
|     |            | 集合 | 12:00        | 広島駅 集合   | 広島駅 新幹線口 改札を出たところで集合 *ア  |
|     |            | 移動 | 12:00～17:00  | エクスカーシオン | 行程は天候を見ながら要検討            |
|     |            | 宿泊 | 17:00        | チェックイン   | ダイワロイネットホテル広島            |
|     |            | 授業 | 17:30        | ミーティング   | 質問事項、聴き取り内容の確認 訪問時の注意事項  |
|     |            | 食事 | 18:30        | 夕食       | 場所是要検討                   |
| 2日目 | 3/6<br>(木) | 食事 | 7:00～8:45    | 朝食       | 集合までに各自で朝食を済ませる          |
|     |            | 集合 | 9:20         | チェックアウト  | 各自チェックアウトを済ませホテルロビーに集合   |
|     |            | 荷物 | 9:20         | 荷物を預ける   | チェックアウト時、ホテルフロントで荷物を預ける  |
|     |            | 移動 | 9:20～9:50    | 徒歩で移動    | 1.5km                    |
|     |            | 訪問 | 10:00～12:00  | 本川小学校    | 本川小学校平和資料館を訪問            |
|     |            | 移動 | 12:00～14:00  | 徒歩で移動    | 1.0km 移動中に昼食をとる          |
|     |            | 訪問 | 14:00～15:00  | 袋町小学校    | 袋町小学校平和資料館を訪問            |
|     |            | 移動 | 15:30        | 荷物を受け取る  | ホテルへ移動 0.5km ホテルで荷物を受け取る |
|     |            | 移動 | 16:00～16:30  | 広島駅へ移動   | 広島電鉄利用                   |
|     |            | 解散 | 16:30        | 広島駅 解散   | 広島駅で解散                   |
|     |            | 移動 | 18:00→各自帰宅   | 広島駅 → 自宅 | 各自新幹線で帰宅する *イ            |

## II エクスカーシオン

2025年3月5日朝、広島駅のホームに立ったとき、空はどこか頼もしい光を宿していた。向かうは宮島。とはいえ完全に旅気分というわけでもなく、電車で揺られながらも、明日控えた本川小学校平和資料館への訪問準備が頭の片隅にあった。メモを見返し、資料に目を通しながらも、窓の外に見える瀬戸内の風景がじわじわと胸をゆるませていく。

宮島口に到着し、フェリーへと乗り換える。船が岸を離れる。やがて遠くに朱色の影——厳島神社の大鳥居が見えてくる。海上に浮かぶその姿は、近づくにつれて次第に迫力を増し、神聖さを纏った巨大な門として目の前に現れる。フェリーの上で息を呑むその瞬間、自分が

どこか別の世界に足を踏み入れようとしているのを感じた。

上陸後すぐ、明日の本川小学校平和資料館訪問の事前確認を済ませる。しっかり整えておくことで、ようやく気持ちが宮島の空気に寄り添ってきた。

まずは参拝をしに参道を歩いた、道中には鹿がたくさんおり、普段歩く道とは違う景色に胸を躍らせた。



2025. 03. 05 宮島さん橋



2025. 03. 05 厳島神社の鳥居



2025. 03. 05 厳島神社の鳥居 教員（左端）も一緒に

参拝を全員で済ませた後は各自で自由行動となった。参道を歩くと、どこからともなく香ばしい匂いが漂ってくる。ふと見つけたのは「揚げもみじ饅頭」のお店。もみじの形そのままに、衣をまといてカリッと揚げられた饅頭は、外はサクッ、中は熱々のあんがとろける逸品。川沿いの小道に腰を下ろしてかじりつくと、ふわりと甘さが口いっぱい広がった。



歩いていると、突然目の前に現れたのは一頭の鹿。なんと、店の入口のマットの上に立ち、ガラス戸の中をじっと覗いている。まるで「このお店、今日もやってる？」とでも言いたげなたたずまいに、思わずシャッターを切った。



2025. 03. 05 宮島の鹿

島中で見かける鹿たちは、人に慣れていて堂々と歩き回っているが、その表情にはどこか神秘的な静けさがある。人と自然、信仰と日常すべてが交錯するこの島ならではの光景だった。

気がつけば、日が傾き始めていた。帰りのフェリーに乗り込むころ、朱の大鳥居は夕空に溶け込むようにたたずんでいた。訪れた時間はほんのわずかだったが、その短さを感じさせないほど、心に残る場面が詰まっていた。この島の空気は、ただの観光では得られない静けさと余韻を持っている。

### Ⅲ 本川小学校へ

#### (1) 本川小学校までの道のり

3月6日朝、本川小学校へ向かう。3月初旬で少し肌寒さが残っていたが、気持ちの良い快晴で、広島澄んだ空気を感じられた。平和大通りから広島平和記念公園を經由して歩く。元安川をはさんで向かい側に原爆ドームを見晴らした後、旧太田川(本川)に架かる相生橋を渡った先に、本川小学校が見えてきた。午前10時の約束の時間まで本川小学校の周りをながめる。



2025. 03. 06 広島市立本川小学校  
平和資料館の入り口は学校の北側にある

約束の時間になり小学校北門のインターホンを押すと、3 名の方が笑顔で出迎えてくださった。そのうちの一人が、本川小学校平和資料館でボランティアガイドをされている青木孝さんだ。入り口には、「ようこそ本川小学校へ 龍谷大学法学部のみなさま」と手書きのウェルカムボードまで用意してくださっていた。資料館で立ち入ることができるのは1階と地階で、まずは1階の中央にある展示室で名刺をお渡しして、ごあいさつをさせていただいた。その際、青木さんは「コンシェルジュと呼んでください」とおっしゃっていたので、本稿でも「コンシェルジュ」を用いる。

## （2）本川小学校平和資料館内をめぐりながら

青木さんには、1階中央の展示室を囲んでいる展示物から順番に、館内を案内していただいた。原爆投下時のようす、資料館に展示されている資料の説明、校舎の建物に残る原爆の痕跡などについて説明を受けた。

1階の西側には、2つの大きな窓がある。その窓から見える外の花壇には、2本バラの木が植えられていた。これらのバラの木は、長崎で被曝した著名な医学博士、随筆家である永井隆博士との交流のなかで贈られたものだそうだ。広島と長崎は世界で2つだけの被爆都市であり、被爆から80年を迎える現在でも交流が続いていることを教えていただいた。「永井隆博士の平和のバラ」は私たちが訪問したのが3月初旬であったため、咲いているところを見ることができなかったが、広島と長崎の絆の深さをうかがえる大事なバラだ。

窓からはバラだけでなく、小学校で現在使用されている校舎の壁も見える。一見すると単なる白い壁といったところだが、この壁には、広島や平和への思いが強いことで知られたアメリカの画家・キース・ヘリング氏が壁画を制作する予定があったそうだ。青木さんが、キース・ヘリング氏のイラストが描かれたTシャツを手にながら話してくださり、構想半ばで彼が亡くなり実現はしなかったが、実現していたらどのような絵が描かれたのだろうと、想像は大きくふくらんだ。私たちが青木さんの説明を受けているとき、館内には私たちのほかに、外国人の若い男性が1名来館しているのも見られ、広島への思いは日本だけにとどまっていないことを実感できた。窓の左側の壁には、1946年、アメリカから学用品を寄付してもらったお礼に送った本川小学校児童の作品の写真も展示されていた。原爆ドームのイラストや、「米國のお友達」「平和日本」「広島市緑の山」と書かれた書道作品は特に印象的だった。窓の右側の廊下には、被爆から2年後の授業風景を収めた写真が飾られていた。資料館のリーフレットにも同じ写真が載っており、たとえ環境が整っていなくても教育を止めなかった当時の人々のたくましさを感じた。<sup>23</sup>

---

<sup>23</sup> 本川小学校平和資料館のリーフレットには、被爆後の写真が複数掲載されている。そのなかの1枚が「被爆から2年後の授業風景」〔1947年（昭和22年）本川小学校所蔵〕である。リーフレットでは次のように説明されている。「廃墟の学区内にトタン小屋が建ちはじめた頃、残存児童が外郭だけの校舎に復帰し、授業を再開したのは、昭和21年2月23日であった。・・・しかし、授業再開とは名のみ。窓は無く、ただ曲がりくねった鉄の枠だけ。床板も無く黒板も無い。備品と言えば、がらん洞の囲いの中に、わずかの児童机、腰掛が見えるだけであった」。これには日常生活に少しでも早く戻そうという当時の人々の「たくましさ」を感じるが、終戦直後の混乱期にあって、子どもたちが犯罪に巻き込まれる、あるいは、犯罪の片棒を担がされる危険性があり、学校をいち早く再開することで、その危険性を回避もしくは軽減するという目的もあったという。2月という冬の寒い季節、窓もなく、「風雨の日は、室内の半分以上は、外と全く同じ状況にさらされ、授業は休止しなければならなかった」（同リーフレット）という状況にもかかわらず、終戦直後の比較的早い段階で学校が再開されたことの意義は大きい。2020年から始まったいわゆるコロナ禍において大学も含め学校は全国的にオンライン授業に切り替わり、今でも大学ではオンライン授業の便利さに甘んじる傾向が若干残っている。教室の意義、児童・生徒と教員が対面授業などで交わる意義は確認されてよいだろう。

なお、リーフレットは本川小学校のウェブサイトからも入手することができる。

<https://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/files/e0899/doc/81619/3320356.pdf>（閲覧日2025年6月10日）。





2025. 03. 06 焼け焦げた分電盤  
本川小学校平和資料館

2025. 03. 06 本川小学校平和資料館 1 階

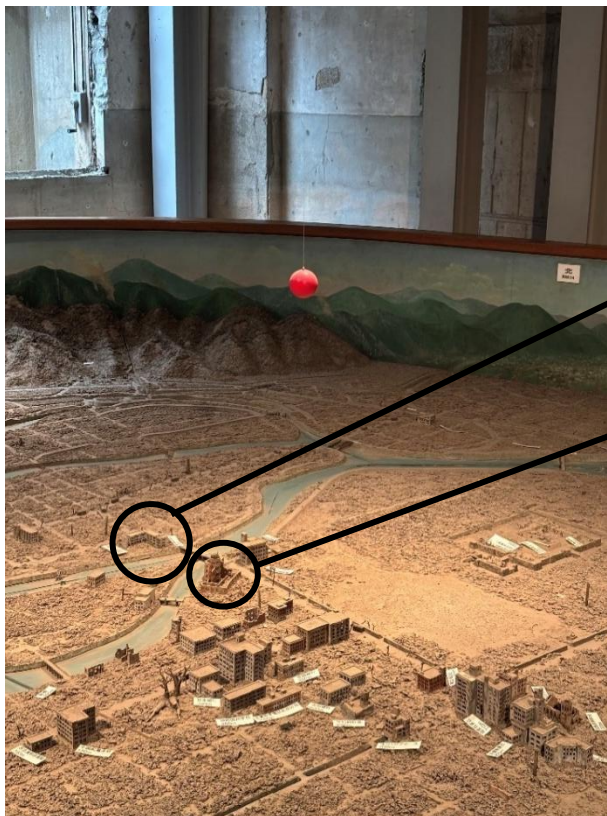
本川小学校は爆心地からわずか 410 メートルという極めて近い場所にあることから、多くの児童や教職員が一瞬で命を落とし、もしくはその影響で亡くなり、たまたま生き延びた人々もその後、深刻なやけどや放射線の影響に苦しみ続けたという。展示されている焼け焦げたもんぺからは、その日生きていた子どもたちの姿が浮かぶ。原爆投下時は、中学生くらいの男の子が作業へと駆り出されており、屋外での作業中に原爆が投下されたため被害がより大きくなったという説明を受けながら館内をまわった。とくに、本川小学校に爆風がどのようにして入ってきたのかも、実際の場所で身振り手振りを交えた説明をしていただいた。「水の都・広島」には多くの川が流れていることもあり、原爆投下の日にはやけどを負った人々が水を求めて川へ集まった。本川小学校のすぐ近くにも「本川」と呼ばれる旧太田川が流れており、川やその周囲にはおびただしい数の遺体が放置されていたという。

ここは被爆した当時の校舎の一部を改装・修理して資料館として残しているため、全てが当時のまま残っているわけではない。しかし、それだけに、当時のものがそのまま残っている箇所はより貴重である。焼け残った施設の一部が当時のまま残されており、その場を目の前に説明を聞くことで、戦争が過去のものではなく、今も記憶されるべき現実であることを突きつけられる。玄関を進んで突き当たりの壁には、焼け焦げた分電盤の電源が残っており、凄まじい熱にも耐えた金属部分だけが当時のままの姿を残していた。コード等は焼けて無くなっており、黒い焦げ跡は痛々しかった。この電源は地下に繋がっていて、こちらも不自然に金属製のパイプだけがいびつな形を残していた。地下に降りて最初に目に入るドアの枠も、被爆当時のまま残っている。そのドア枠は、熱線を受けた片側だけが真っ黒に焦げていた。

地下 1 階に降りると、広いスペースに、原爆投下時の広島市内を再現した巨大なジオラマが展示されていた。これは、1992 年に広島平和記念資料館がリニューアルされた際、元々あった展示が本川小学校に移されたものだ。残された建物と原爆との対比はあまりにも無情で、「この場所に原爆を落とすことに、迷いはなかったのだろうか」と思ってしまう。原爆を投下した当時の搭乗員たちは、「奪った命より、多くの命を救った」と主張したというが、その言葉には過ちを犯したという実感がないことを表している。ただ政府の命令を遂行したという安心感があっただけではないかと思えてならない。



2025. 03. 06 本川小学校平和資料館の地下室  
 もとは平和記念資料館に設置されていた原爆投下時の広島市を模したジオラマ  
 現在は本川小学校平和資料館地階に移設されている



本川小学校

原爆ドーム

2025. 03. 06 真ん中やや上にあるオレンジ色の球体が原爆が爆発した火球を表している

地下には1階以上に水洗トイレが設置されていたとみられる跡も残っており、まず地下室があることも当時の公立小学校としては珍しかったそうだ。1873年（明治6年）創立の本川小学校は、1928年（昭和3年）に鉄筋コンクリート3階建ての校舎が完成し（広島市で最初）、地下室まで備える建物だった。1923年（大正12年）の関東大震災をふまえ、災害に強い鉄筋コンクリートを用いて建てられた、当時最先端の校舎だったからこそ、本川小学校は原爆の爆風に耐えられたのだと教えていただいた。本川小学校から約1kmの距離にある袋町小学校（この日の午後訪問する）は、本川小学校を参考にして建てられたため、両学校には地下室があるのだそうだ。青木さんは建物と展示物そのものが「被爆の証」であることを強調され、本川小学校平和資料館の館内の壁などには黒いすすやけむりの跡が残っており、私たちにも分かりやすいように話してくださった。





2025. 03. 06 黒いけむりの跡 本川小学校平和資料館

(3) あらためて説明をうかがう

館内をめぐりながらの説明をうかがった後、1階中央の展示室に戻り、あらためて、コンシェルジュの青木さんのお話をうかがった。(本川小学校平和資料館の方々が事前にスクール形式でいすを教員用も含めて人数分ご準備くださっていた。)



2025. 03. 06 コンシェルジュの青木孝さんによる説明を聞く

前方で説明してくださっているのが青木さん

学生が座っている両サイドに戦争と平和に関する貴重な資料が展示されている



2025. 03. 06 1 階中央の展示室は異次元のカプセルのようなデザインになっているらしい  
(確かに天井が半だ円形のかまぼこのような形状になっている)

本川小学校まで歩いて来るときに渡った相生橋は原爆の投下目標とされたという。空から見ると T 字型の形状をしていて目標としやすかったからだ。被爆直後に本川小学校は救護所として使われたものの、十分な薬がなく、運ばれてきた人は次々に亡くなったそう。遺体を一定期間置いておいて、これ以上家族が探しに来ないだろうと判断したら火葬することを繰り返し、校庭では 1 か月にわたって火葬が続いた。資料館のリーフレットには、被爆により「校長ほか 10 名の教職員と約 400 名の子どもたちの尊い生命が一瞬のうちに奪われました」と記載されているが、亡くなった教職員は「10 名」と分かっているのに対し、子どもたちは「約」400 名と、行方が分からない場合もあったことが暗に示されている。<sup>24</sup>

青木さんに教えていただいたことの 1 つに、漫画『はだしのゲン』の作者・中沢啓治さんのことがある。中沢さんは小学 2 年生から本川小学校に通っていた同校の卒業生なのだそう。作品には、本川(ほんかわ)小学校をもとにした元川(もとかわ)小学校が登場する。『はだしのゲン』は広島市の学校における平和教育の教材として使われてきたが、2023 年、広島市教育委員会は、『はだしのゲン』を平和教育教材として使わないことにしたという。<sup>25</sup> 青木さんは非常に残念そうであったが、同じく本川小学校が舞台となっている絵本『いわたくんちのおばあちゃん』が平和教育の教材として選ばれたことについて喜んでいらした。<sup>26</sup>

<sup>24</sup> 青木さんによると疎開前は約 1,200 名の児童が在籍していたが、そのうち約 800 名が疎開し約 400 名が残ったという。リーフレットからは、1946 年(昭和 21 年)2 月の授業再開時、児童数 45 名であり 4 名の教員のもとで学んだことや、この人数が本川小学校の近くにある広瀬小学校の学区と合わせての数であることが分かる。疎開しなかった児童ほぼ全員が亡くなったことを示している。

<sup>25</sup> これについてはいくつも報道されたが、さしあたり 2023 年 2 月 16 日付配信「TBS NEWS DIG」ウェブサイト参照。<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/332190?display=1> (閲覧日 2025 年 6 月 10 日)。同サイトでは次のように報じられている。「広島市教育委員会は、新年度(2023 年度:引用者)から市内の小学校で使う平和教育教材の内容を見直し、漫画『はだしのゲン』を使用しないことにしました。広島市は小学生から高校生までに独自の平和教育プログラムを導入しています。今年度までの教材では、小学 3 年生のパートに漫画『はだしのゲン』の一部が使われていました。プログラムの導入からおよそ 10 年が経ち、市教委は大学教授や学校関係者などと改訂について検討しました。この中で『はだしのゲン』については、『漫画の一部を教材としているため被爆の実相に迫りにくい』という指摘がありました」。

<sup>26</sup> たとえば 2023 年 8 月 4 日配信「中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター」ウェブサイト参照。<https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=135235> (閲覧日同)。ほかにも平和教育教材の活用例として「NHK アーカイブス」ウェブサイト参照。[https://www.nhk.or.jp/archives/teachers-1/list/pdf/teacherslib\\_no5\\_p52-53\\_P1.pdf](https://www.nhk.or.jp/archives/teachers-1/list/pdf/teacherslib_no5_p52-53_P1.pdf) (閲覧日同)。

説明を聞かせていただいた後、私たちからいくつか質問した。以下箇条書きで記す。

・質問 英語で書かれている説明がたくさんあるが、海外からも多くの人が訪れるのでしょうか。

→回答 外国からの訪問は少しずつ増えています。資料館の訪問者の1割は外国からの訪問者で、なかでもヨーロッパやアメリカからの人が多く、実際、英語のパンフレット等が整備されており、国際的な関心が高いと感じられます。

・質問 本川小学校の児童は、広島市内の他の小学校の児童と比べて、あるいは、広島以外の他の生徒と比べて、戦争や核兵器に対する意識や知識が違っていると感じることありますか。

→回答 平和学習にかなりの時間を割いており、児童は日常的に戦争・被爆について考える機会が多いため、一般の児童よりも意識が高い、理解も深いと思います。市内の中でもとくに本川小学校の平和への思いは強いと感じます。<sup>27</sup>

・質問 本川小学校だけでなく広島市の小学校は平和学習や平和に関する授業を長く続けてきています。子どもたちは「もう飽きた」とか「また平和（学習）か」といった感情を持っていないのでしょうか。

→回答 これは（平和学習や平和に関する授業は）広島がやらないとね。広島がやめたら・・・（平和を守れなくなる）ね。<sup>28</sup>

本川小学校の平和学習については、学校の教育の一環で、6年生が1年生に資料館のことを案内・説明するイベントがあったり、1年に1回、平和の歌である「ぼくたちの学校、そして祈り」を合唱する機会があったりするなど、本川小学校ならではの平和学習が行われているようだ。<sup>29</sup>本川小学校では毎年8月5日には慰霊祭が行われる。そして、8月6日は夏季休暇のなかでも市内の学校では登校日になる場合が多いようだ。「平和登校日」と呼ばれ、原爆に関連するビデオを見たりする。その中でも、平和記念公園で行われる式典の映像をテレビ中継で見る取り組みは、毎年必ず行われていると聞いた。

青木さんによる説明の最後に、このようなものがあることなど訪問前までまったく想像していなかった展示を見せていただいた。「安らかに眠ってください 過ちは繰り返させぬから」と大きく書かれた横長の額である。広島平和記念公園の中央にある原爆死没者慰霊碑に刻まれたあの碑文である。<sup>30</sup>

#### （4）自由行動

コンシェルジュの青木さんによる説明の後、自由行動の時間をとった。私たちは各自の関心により展示物をより詳細に見学した。溶けた板ガラスや溶けた瓦は実際に触れることができ、質感や重みなどを触って感じるができる。原爆が現実味を帯びて迫ってくるようだった。当時の衣服なども展示されており、惨状を感じることもできる展示物も多い。上述の被爆から2年後の授業風景を収めた写真をあらためて見に行くと、1脚のいすに2人がすわ

---

<sup>27</sup> 青木さんは、（平和資料館のコンシェルジュ〔ボランティアガイド〕であることから、）ご自身で「学校教員ではないから詳しく児童の声は知らないけれど」と前置きをされたうえで、報告書本文中記載のように回答された。

<sup>28</sup> クラス担当教員がこの質問をした。青木さんは答える際毅然としておられた。

<sup>29</sup> 本川小学校ウェブサイトにも平和学習発表会、全校合唱「ぼくたちの学校、そして祈り」（2017年11月25日配信）が載っている。

[https://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0899&type=1&column\\_id=298930&category\\_id=3780&date=20171201](https://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0899&type=1&column_id=298930&category_id=3780&date=20171201)（閲覧日2025年6月10日）。

<sup>30</sup> 一般に原爆死没者慰霊碑と呼ばれることの多いこの碑は公式名を「広島平和年記念碑」という。広島市ウェブサイト <https://www.city.hiroshima.lg.jp/faq/atomicbomb-peace/1001617/1002399.html>（閲覧日2025年6月10日）。1952年（昭和27年）につくられた碑であり、当時の広島市長から依頼を受けて碑文を考案したのは、英文学が専門の雑賀忠義広島大学教授（当時）であったという。その主語をめぐる論争も含め、2023年8月25日配信NHK広島放送局ウェブサイトを参照。

<https://www.nhk.or.jp/hiroshima/lreport/article/005/34/>（閲覧日同）。



って授業を受けているようすが分かる。いすが全員分なかったのだ。自宅からいすを毎日持ってきては持って帰る必要があり、自宅にいすがない子は他の子のいすと一緒にすわらせてもらうしかなかったという話も残っている。それでも子どもたちは前を向いている。

音速を超える爆風が人々を吹き飛ばし、一瞬で命を奪った。衝撃で即死した人、熱線によって苦しみ悶えながら亡くなった人。展示されている原爆に遭った人たちの証言や遺品は、統計的な数字としてではなく、生身の人間が経験した痛みと苦しみである。

あの日ここにいた子どもたちは何を見ていたのだろう。戦争や原爆について語るとき、死者の数、爆風の威力などの数字に目が行きがちだが、本川小学校平和資料館では、一人ひとりの命とその直前まで営まれていた生活の重みを感じることができる。

自由行動の時間にも青木さんに質問することができた。そういえば青木さんはハンティング帽をかぶっておられたが、そこに2つの缶バッジがついていた。気になって尋ねると、ひとつは広島への原爆投下時刻 8 時 15 分を指す時計を模したもので、もうひとつは長崎・平和の像のイラストのバッジだった。もう一度分電盤を見に行くと、被爆後 3 日で電気は復旧していたらしいと聞いた。そのため、電車（広電）も 3 日後には走っていたという。

31

自由行動の時間が過ぎ、本川小学校を辞去することとした。青木さんをはじめ3名の方々にお世話になり、正面玄関で記念写真を撮った。訪問と平和の記念である。帰り際、手作りのかわいらしいストラップをいただいた。



2025. 03. 06 訪問の記念にいただいたストラップ



2025. 03. 06 本川小学校平和資料館の入口前で

後方左端がコンシェルジュの青木孝さん

後方左から2人目の学生が持っているのは小学生による手作りのウェルカムボード

「ようこそ本川小学校へ 龍谷大学法学部のみなさま」と書かれている

平和資料館では青木さんをはじめ3名の方々にお世話になりました

ほんとうにありがとうございました

<sup>31</sup> 広島電鉄のウェブサイトでも「広電の歴史」のなかで、原爆投下3日後には己斐～天満町間で電車が復旧し、多くの市民を勇気づけたと記されている。

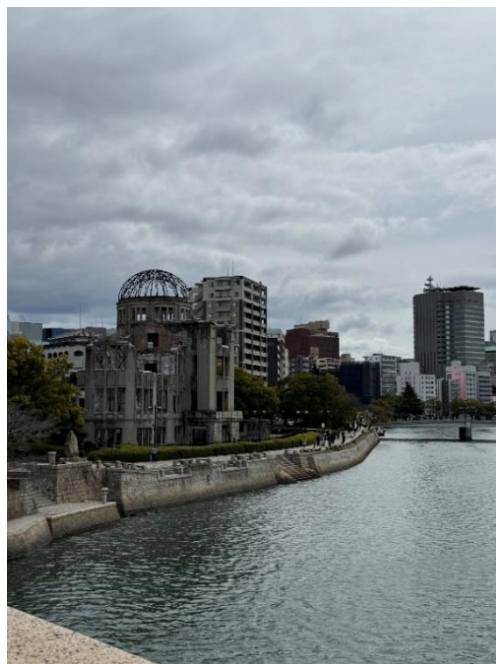
<https://www.hiroden.co.jp/company/outline/history03.html>（閲覧日 2025 年 6 月 10 日）。

#### Ⅳ 本川小学校から原爆ドームを経由して袋町小学校へ

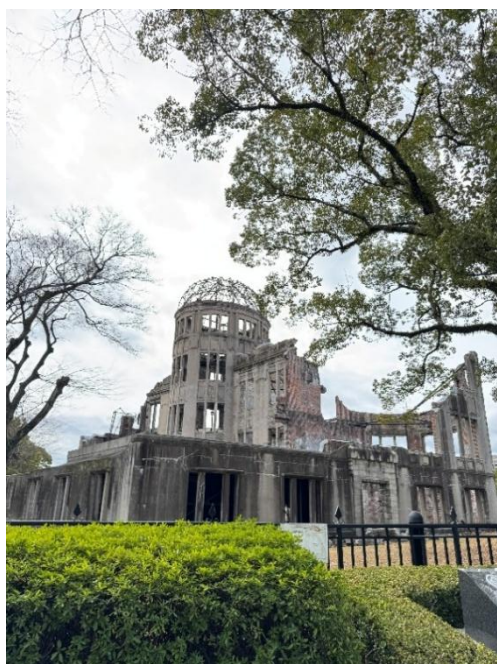
本川小学校をあとにした私たちは相生橋を渡った。相生橋は小学校のすぐそばを流れる旧太田川（本川）にかかる橋でT字型をしている。青木さんに説明していただいたように、この形が上空からも目立ったことから原爆投下の目標となった橋である。橋のちょうど真ん中あたりに立つと右側に本川小学校が左側に原爆ドームが見える。相生橋を渡り原爆ドームのそばを通る。次の訪問先である袋町小学校へ向かう前に昼食をとる必要があり先を急ごうとしたが、私たちが歩いているこの地中にも行方知れずのあまたの人骨が埋まっていることを思うと、急ぎ足で通り過ぎることはできなくなった。それぞれが原爆ドームにたたずみ何かを感じる時間をとることとした。久しぶりに見た原爆ドームは大きい。がれきもそのまま残されている。戦争の遺跡と隣り合わせの平和な繁華街で昼食をとり袋町小学校に到着したのは13時50分頃である。



2025. 03. 06 旧太田川（本川）からながめた本川小学校の校舎（白い建物）



2025. 03. 06 旧太田川（本川）からながめた原爆ドーム



2025. 03. 06 原爆ドームの横を通る



2025. 03. 06 袋町小学校へ向かう



## V 袋町小学校へ

袋町小学校平和資料館は本川小学校平和資料館から南東へ徒歩 15 分ほどの距離にあり、本川小学校同様、袋町小学校も現在小学校として使用されている。



2025. 03. 06 広島市立袋町小学校

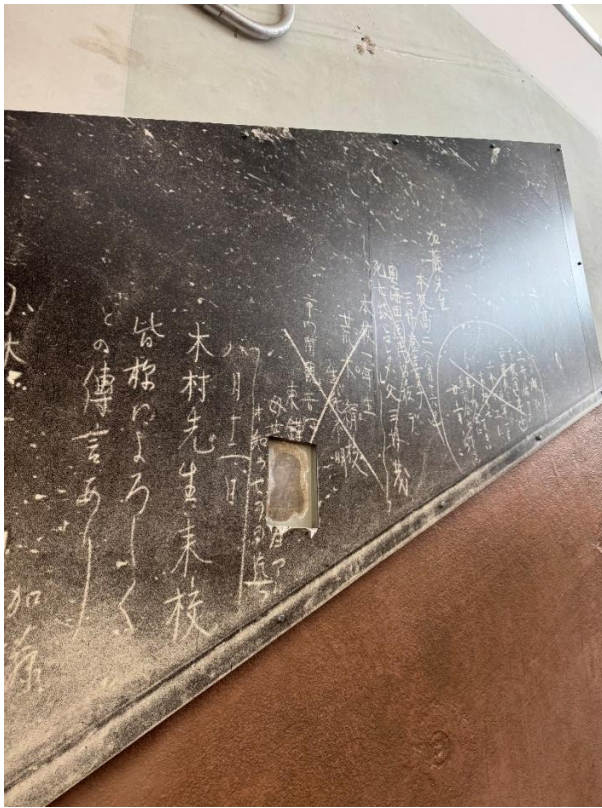
袋町小学校は原爆投下後、被災者の救護所として重要な拠点であった。したがって多くの被災者が袋町小学校に集まるとともに、自身の家族や親族を探し安否を確認する場でもあった。その証拠として、階段の壁や児童館として使用されていた頃の教室の黒板裏など、あらゆる箇所に安否確認のための「伝言」が残されている。

この「伝言」は、校舎の全面改築にあたり、1999 年 3 月に壁の一部を削ったところ、姿を現した。原爆の影響で校舎の中が焼け、ススで黒くなった壁を黒板代わりに家族や教え子の安否確認、自身の無事などを残ったチョークで書き残したものである。1999 年まで「伝言板」が見つかっていなかったのは、1946 年 6 月に袋町小学校で学校を再開する際、伝言が書かれた壁が塗りなおされてしまったためである。同資料館には実際に伝言が書かれた壁が展示されているとともに、伝言を残した人の遺族が校舎の改築により現れた肉親の伝言と対面する際の映像が放送されている。

原爆による爆風や火事によって家族の生死も分からない中で、諦めきれない気持ちを抱えながら伝言を残した当時の被災者の悲痛な思いが、伝言板からありありと伝わってくる。伝言板のほかにも、実際に原爆の影響により壊された扉と窓や燃えて炭化した木れんが、爆風により吹き飛ばされた太鼓など計 36 点が展示されている。壁や天井にはさすがに付着している部分もあり、建物自体からも原爆が及ぼした被害を感じ取ることができる。袋町小学校平和資料館は街中にひっそりとたたずむ資料館だが、原爆の恐ろしさと被災者の思いが伝わる貴重な場所である。



2025. 03. 06 袋町小学校平和資料館 階段の壁に書かれた「伝言」 (写真)



2025. 03. 06 黒地が欠けているところに当時書かれた実際の字が見える



2025. 03. 06 袋町小学校をあとにする

## おわりに

戦後80年のこの年、私たちは1泊2日にわたる平和スタディツアーを自分たちで企画し、実際に広島を訪問した。若い世代が関心をもち、実際に多くの若者に訪問してほしい。そのために何かできることはないだろうか。戦争は過酷な経験であるため、戦争を語るとき「明るい」気持ちにはなれないが、その経験をされた方々に心を寄せることを忘れないようにしながら、平和について「楽しく」学ぶことができる機会があってもよいのではないかと考えている。せっかく訪問するのだから、行き先の近くに世界遺産や史跡などの観光地があれば仲間と一緒に過ごす楽しみがあってもよい。「ツアー」とはそういうものだ。「ツアー」における楽しみがあれば「スタディ」のほうも身が入る。

平和スタディツアーの意義が若い世代に届くには、いくつかの要素が必要であると私たちは考えている。たとえば、SNSの活用と情報発信、ボランティアガイドの存在、十分な事前学習の3点について述べていきたい。



## 1 SNS の活用と情報発信

今の若い世代はいわゆるデジタル・ネイティブである。インターネットや情報機器が身近にありそれらを通じて情報を入手したり共有したりするのが当たり前の世代だ。本川小学校平和資料館や袋町小学校平和資料館について書かれた SNS 上の多くのポストから、若い世代によるものを抽出し、それを平和資料館側が情報発信することで、より多くの若い世代による訪問が期待できる。まずは足を運んでもらうことが大切である。「この展示は見るべき」というおすそめを加えることで、「自分も行ってみよう」と思ってもらえるような情報発信になるだろう。<sup>32</sup>

## 2 ボランティアガイドの存在

私たちが経験したスタディツアーのように、訪問先でボランティアガイドの方から説明していただくことができれば、そこでしか聞けないような興味深いエピソードを知ることができる。そのエピソードはインターネットには書かれていない、人から人へと伝えられてきたものである。

本川小学校平和資料館コンシェルジュの青木さんは、本稿第3章Ⅲ（2）でも述べたように、館内を案内していただいた早々にキース・ヘリング氏による校舎への壁画制作計画について話されたが、キース・ヘリング氏の名前を瞬時に思い出せなくとも、同氏デザインのイラストが描かれたTシャツを見せていただいたことで「この人か！」とすぐに分かり、同氏が広島に寄せていた思いや平和への願いがどれほど強かったかを理解できる。「何それ!？」と若い世代の心をつかむようなデバイスを青木さんは用意してくださっていて、私たちは一気に引き込まれた。

## 3 十分な事前学習

予備知識がないまま訪問するのではなく、事前学習を十分に行っておくことも重要である。今回私たちはそれぞれの関心にもとづき「法政アクティブリサーチ」の当クラス受講生全員が平和学習に役立つ訪問候補地を提案し「ツアー」の企画を立て、広島以外の候補地についても、そこを訪問する意義や訪問先で何を学べるかなど、事前に調べ、考え、発表し合い、意見交換を行った。本稿第1章では、冒頭で訪問候補地7か所を示した一覧表を掲載し、続けて、各候補地を訪問する意義や学習できる内容などを簡潔に述べたが、それらを検討した際に各自が用意した授業用発表資料は二次案もしくは三次案まで続くより詳細なものである。

訪問候補地については、「多くの人が訪れる場所や誰もが知っているメジャーな施設ではないかもしれないが、若い世代とくに大学生にぜひ足を運んでもらいたい場所や施設を提案しよう」というルールをあらかじめ決めておいた。<sup>33</sup>そのようなルールを決めておいたことにより、自分で調べなければならない部分が自然と多くなった。このことが十分な事前学習につながったと思われる。

---

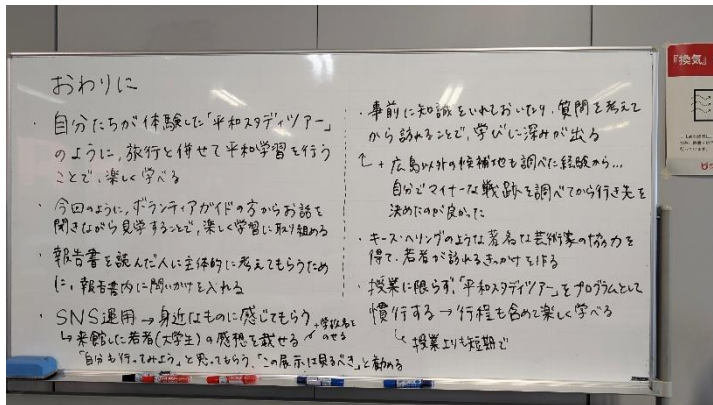
<sup>32</sup> Dive! Hiroshima という広島公式観光サイトがあり、そこには平和学習のための1日コースと半日コースがモデルとして提示されている。本川小学校平和資料館や袋町小学校平和資料館は1日コースのほうに含まれている。<https://dive-hiroshima.com/business/school-trip-guide/course-school-trip-1day-peace/>（閲覧日 2025 年 6 月 10 日）。

<sup>33</sup> 訪問候補地の探し方やそこを訪問する意義の検討にあたっては、梯久美子『戦争ミュージアム―記憶の回路をつなぐ』岩波新書、2024 年を全員で読み、参考にした。訪問先での質問を考える際にも同書を参考にし、質問する視点を学ぶことができた。



2025. 03. 06 折り鶴 全国の学校の名前が見られる 本川小学校平和資料館

戦争や平和について家族や仲の良い友達と話すことは実のところ難しい。気恥ずかしいという思いもある。だが、戦争のことを一人で考えるだけでは平和にはつながらない。身近な人に言葉に出して話してみることから始めよう。まずはできるところから、授業の中で受講生同士だけでもよいと思う。



2025. 06. 11 授業「まずはできるところから」  
受講生同士だけで話した結果をホワイトボードにまとめた